

二条城北小学校 学校教育方針

1 学校教育目標

夢に向かって 自分らしく たくましく ひらいていく 二条城北の子
やってみよう！チャンス、チャレンジ、クリエイト
～学びいっぱい！笑顔いっぱい！元気いっぱい！の学校を目指して～

本校の児童につけたい資質・能力

『自己肯定感』…自分の良さや可能性を認識する力

『自己有用感』…自分の価値を認め、人の役に立っていると認識する力

2 目指す子ども像（3つの「か」）

- 学びいっぱい「考える子」…自分で考え、進んで行動する子
- 笑顔いっぱい「感じる子」…力を合わせ、高め合う子
- 元気いっぱい「かかわる子」…思い切り遊び、心も体も健康な子

3 目指す学校の姿

- 主体的な学びを実現できる学校（自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考える）
- やさしさあふれるあたたかい学校（思いやりやぬくもりにあふれた言葉や行動）
- 美しく整い、信頼関係のある学校（学習環境が整い、家庭、地域と共に高め合う。）

4 目指す教職員の姿

- 教育改革を自ら推進する教職員
 - ・ 様々な課題をチャンスと捉え、教育活動をクリエイトし、チャレンジを試みる教職員
 - ・ 理想の教育像を掲げ、ゴールイメージと見通しをもって教育を進める教職員
 - ・ つけたい資質・能力の育成を意識し、子どもが自ら学ぶ教育活動を創造する教職員
- 情感豊かな教職員
 - ・ 人権感覚を磨き、人権尊重や命の尊厳を意識する教職員
 - ・ 子どもの背景にまで思いを巡らせ寄り添い、豊かな心をはぐくむ教職員
 - ・ 一人一人の子どもの良さを見つけ、ほめてしかって認めて伸ばす教職員
- 心身ともに健康な教職員
 - ・ 働きがいを感じ、日々の生活や教職人生をウェルビーイング*なものにしようとする教職員
 - ・ 高い同僚性を持ち、話し合い、あたたかい職場をつくろうとする教職員
 - ・ 理念と熱意をみんなで共有し、みんなで向かう教職員

*ウェルビーイング…身体的・精神的・社会的に満たされた状態

5 学校教育目標達成のために

(1) つけたい資質・能力の育成

- ① 4つのプロジェクト（研究・生指・人権・健康）による取組推進
 - つけたい資質・能力につながる活動や取組の構築
 - カリキュラムマネジメントの中核に位置付け、教科横断的な視点から教育活動を推進
 - 学ぶことの楽しさを感じられるような探究の過程を適切に設定
 - 子どもが主体者となるような子ども発信の取組の推進
 - 子どもの姿や変容をもとにしたP D C Aサイクルに則った検証や分析
- ② 基盤となる言語表現力の育成
 - あらゆる教科・領域を通した言語表現力の育成
 - 対話的な学習場面を授業の中に意図的に設定
 - 話し方・聞き方・話し合い方のルールを明確にし、徹底
 - 書く力の育成
 - 言語表現力を支え広げる読書環境の整備

(2) 学力向上

① 授業改革

【目指す授業】

- つけたい資質・能力を柱に据えた授業
- すべての児童が「わかる・できる」授業
- 子どもが主体的・対話的に学び、深い学びを得る授業
- 「教師が教える」のではなく、「子ども自らが学ぶ」授業
- 探究する楽しさを感じられる授業

【授業改革のために】

- つけたい資質・能力を軸とし、全ての教科に波及する校内研究の推進
- 個や能力に応じた指導・支援の徹底
- 指導に生かす評価・分析の在り方（P D C Aサイクルの活用）
- I C Tの活用
- 協力指導体制の充実（**教科担任制** **交換授業** 専科 授業支援等）

【授業力の向上】

- 授業を行う … 校内研究を核に、児童自らが主体的に学ぶ授業の構築
- // 見る … 校内研究 若手研修 校内O J T 他校の研究発表会
- // 学ぶ … 自己研鑽を積む（外部研修 校内O J T 研究会活動等）

② 高まりのある学習集団の形成

- 「学ぶことはあたりまえ」の意識と姿勢
- 学習規律の明確化・共通化と徹底
 - ・ 学習ルール（授業中の言葉づかい、姿勢、整理整頓等）の徹底
 - ・ 構造化（めあて～展開～まとめ・振り返り）された授業
 - ・ 板書ルールの統一（めあてカード、色使いのきまり等）
 - ・ ユニバーサルデザインの視点に立った教室経営
- やはり、子どもは「授業」で育てる ← 「生徒指導の三機能」の作成・活用

③基礎・基本の学力、自主的な学習習慣の定着

- デジタルドリル「ドリルパーク」の活用
- 帯学習（きらきらタイム）の取組

④「教育DXビジョン」に基づいた教育の情報化の充実

- ICT機器を活用し、情報活用能力の向上を目指した取組
- GIGAスクール構想のさらなる推進による協働的な学びと個別最適な学びの実現
- デジタル・シティズンシップ教育の推進
- プログラミング教育の推進

（３）人権教育の充実 ～豊かな人権感覚を育むために～

①同和教育

- 一人一人の人権を大切にし、同和問題の解決に向けて主体的に行動できる実践的態度と能力を育てる。
- 全ての児童の学力の向上を図る。
- 研修を通して、教職員自ら鋭い人権感覚を身につける。
- 同和問題指導・素地指導の充実を図る。
- 保護者啓発の充実を図る。

②総合育成支援教育

- 障害についての理解を深め、すべての児童に、人を人として尊敬し、他者にやさしくできる力を育てる。
- わかたけ学級、草の芽学級と普通学級との交流を通して、すべての児童が障害についての理解を深め、互いに触れ合い、支え合うようにする。
- LD等通級指導教室との連携を深めながら、支援の必要とする子どもへの指導体制の充実を図るとともに、支援ができる学年、学級作りを進める。

【難聴教育】

- 自らの聞こえを把握することで、周りの人と関わり方を考え、主体的に考えや思いを伝える児童の育成を目指す。
- 難聴学級の友達の聞こえに対する困りを自分と関連付けて考えられる児童の育成を目指す。

③外国人教育

- 民族や国籍の違いや文化の多様性を認め、相互の主体性を尊重し、共に生きる国際協調の精神を養い、実践的態度を育てる。
- 外国人児童及び外国にルーツをもつ児童ひとり一人の自己実現に向け、学力の向上と個性の伸長を図る。
- 外国人児童及び外国にルーツをもつ児童の保護者との連携と信頼関係の構築を図る。

④ジェンダー教育

- 性差を理解しつつ、性別に捉われることなく、ともに尊重、協力し合いながら、自分らしく生きることのできる力を育てる。

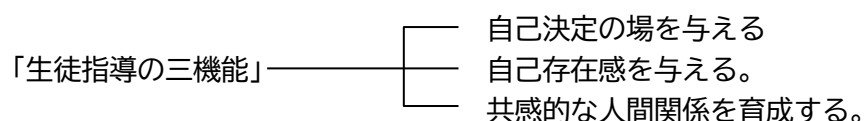
（４）生徒指導の充実

①目指すべき子どもの姿

- 自己指導能力（自ら考え、判断・行動をする力）を育てる。
- 自己肯定感（自分には良さや可能性があるという意識）を育てる
- 自己有用感（自分は人の役に立つ存在であるという意識）を育てる。

②生徒指導の三機能

- 「生徒指導の三機能」を意識し、授業や生活指導の中で実行するようにする。



③指導に関して

- 一人ひとりの子どもが安心して楽しく過ごせ、学習に向かう学級づくりを進める。
(誰もが、「今日も学校に来てよかった」「学校が楽しい」と思える学級・学校)
- あたたかい指導の実践
 - ・子どもの置かれている背景にまで目を向け、子どもの立場に立った児童理解をする。
 - ・話を十分聞いたうえでの共感。次に、心に染み入り届く指導
 - ・「対話の学習」の実践をベースに、子どもが自らの思いを表出できる指導
 - ・日常観察を積極的に行い、心情や行動を多面的にとらえて、見逃しのない観察、手遅れのない対策をとり、根気強く心の通った指導を行う。
 - ・威圧感を与える感情的な指導は行わない。
- 「生徒指導の三機能」を柱に、学習指導と生徒指導が一体となる授業を構築する。
- オフィシャルな言葉づかいの徹底(教職員も児童も)
 - ・授業中の言葉づかい
 - ・目上の人に対する言葉づかい
- 有事の際の対応は、素早く丁寧に誠意をもって行う。

(5) 健康教育の充実

- 子どもも教職員も常に安全に対する意識を高くもち続けることができるように努める。
- 一人一人の心身の健康状態を的確に把握し、健康な体作りに取り組む。
- 自分の心や体について理解し、生活のリズムを整え、家庭との連携のもと、健康作りに取り組む習慣を身に付けるようにする。「早寝・早起き・朝ごはん」
- 給食を通して栄養やマナーの大切さを理解し、バランスのとれた栄養について理解し、望ましい食生活の習慣を身に付けるようにする。
- 怪我、事故の未然防止と指導の徹底を図るようにする。
- 有事の際の対応は、素早く丁寧に誠意をもって行う。

(6) 開かれた学校づくり

- 教育活動(ねらいや内容)の積極的な提示
- 学校運営協議会での熟議や参画による学校運営の充実
理事会(年3回) 企画推進委員会(年2回「子どもを語る会」)
- 学校評価の効果的な活用
- 学校ホームページの充実
- 地域の資源(ひと・もの・とき)を効果的に活用

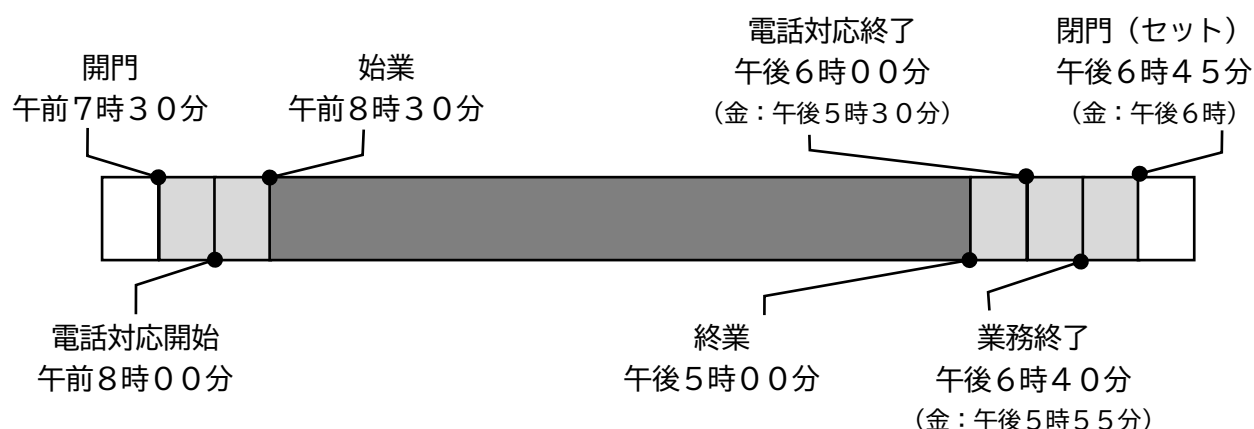
6 働き方改革の推進

(1) 熱意と元気と働きがいのあるウェルビーイングな職場

- 教職員がやりがいを感じ、心身ともに明るく元気で子どもに向かう。
- 日々の生活や教職人生が楽しく幸せである働き方を指す。
- 子ども一人一人を大切にするという理念と熱意をみんなで共有し、みんなで向かう。
- 高い同僚性のあるあたたかい職場にする。
 - ・お互いが得意なところを生かし、助け合い、教え合う。
 - ・お互いの事情や都合を理解し合い、助け合い、支え合う。
 - ・様々な職種の職員の仕事ぶりをお互いに尊重し合い、感謝し合う
- 取組の成果を振り返り、分析することで、児童の変容を把握し達成感につなげる。
- 自己研鑽に努め、お互いが切磋琢磨するプロとしての教育集団を目指す

(2) 時間を意識した働き方

- ゴールイメージと見通しをもち、計画性のある働き方
- 責任や自覚をもち、優先順位をつけながらの働き方
- 計画・実践は「足し算」でなく「引き算」で
- 出勤・退勤時刻の厳守



(3) 業務の効率化

- 教科担任制、交換授業の実施・推進
- 協力指導体制、とりわけ専科指導の推進
- GIGA 端末等、ICT 機器を活用した教材の使用、校務の推進
- 得意分野を生かした教え合い、助け合い
- 校務支援員の活用
- 会議・研修等の時間的スリム化（提案の軽重づけ…会議提案、職タ提案、メール提案）
- 提案文書の即時修正（取組終了後、反省やアンケートをもとに加筆・修正）
- 配布文書の電子化（「すぐーる」の活用）

(4) 業務の精選・適正化

- つけたい資質・能力を柱にしたカリキュラムマネジメントの推進
- 見通しのある年間行事計画・年間研修計画の作成
- PDCAサイクルを生かしての取組の改善
- 会議・研修の内容精選
- 社会見学や出前授業等の精選（カリマネに沿って）
- 学級だより・学年だよりの簡素化（情報発信はできる限り学校HPで）